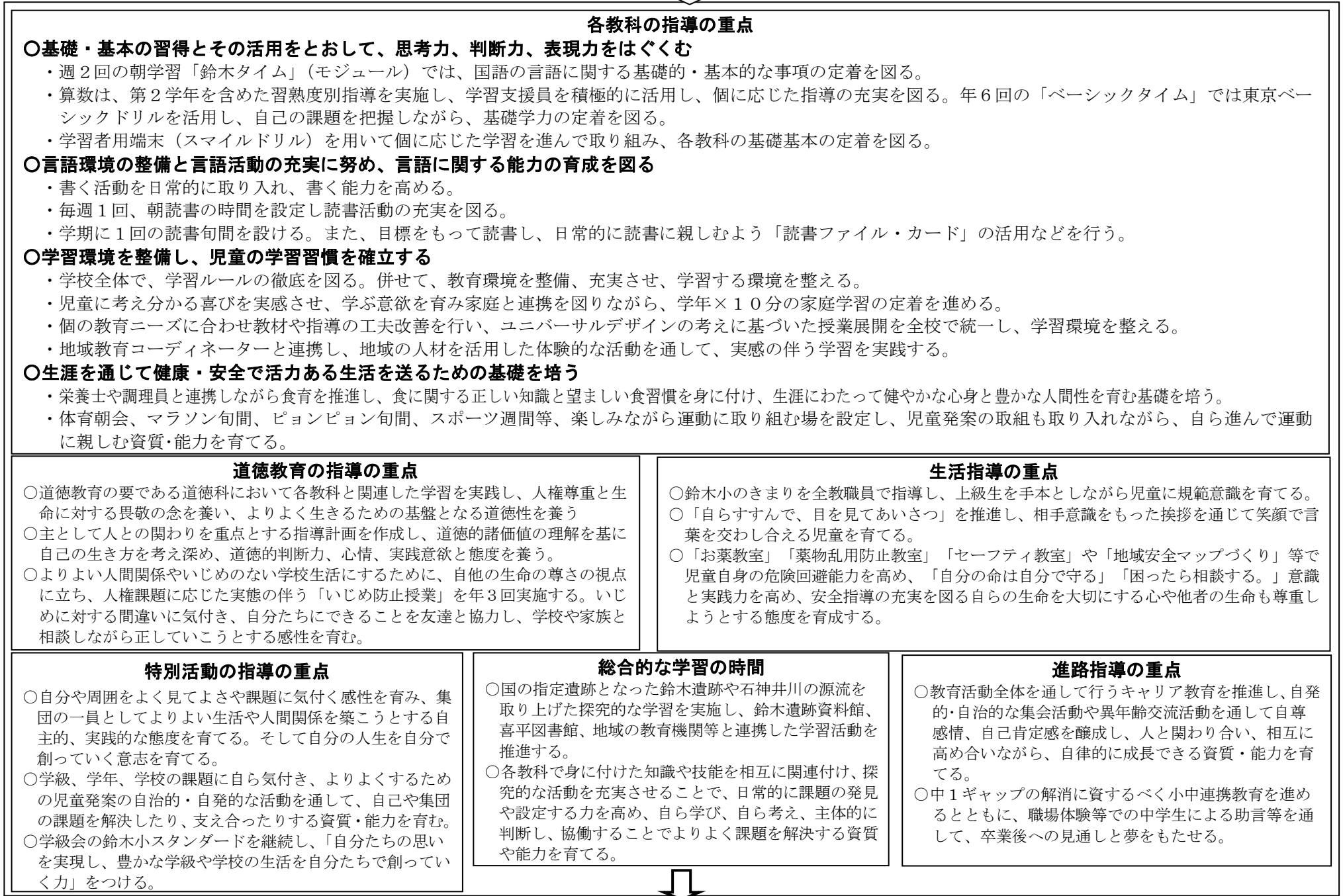
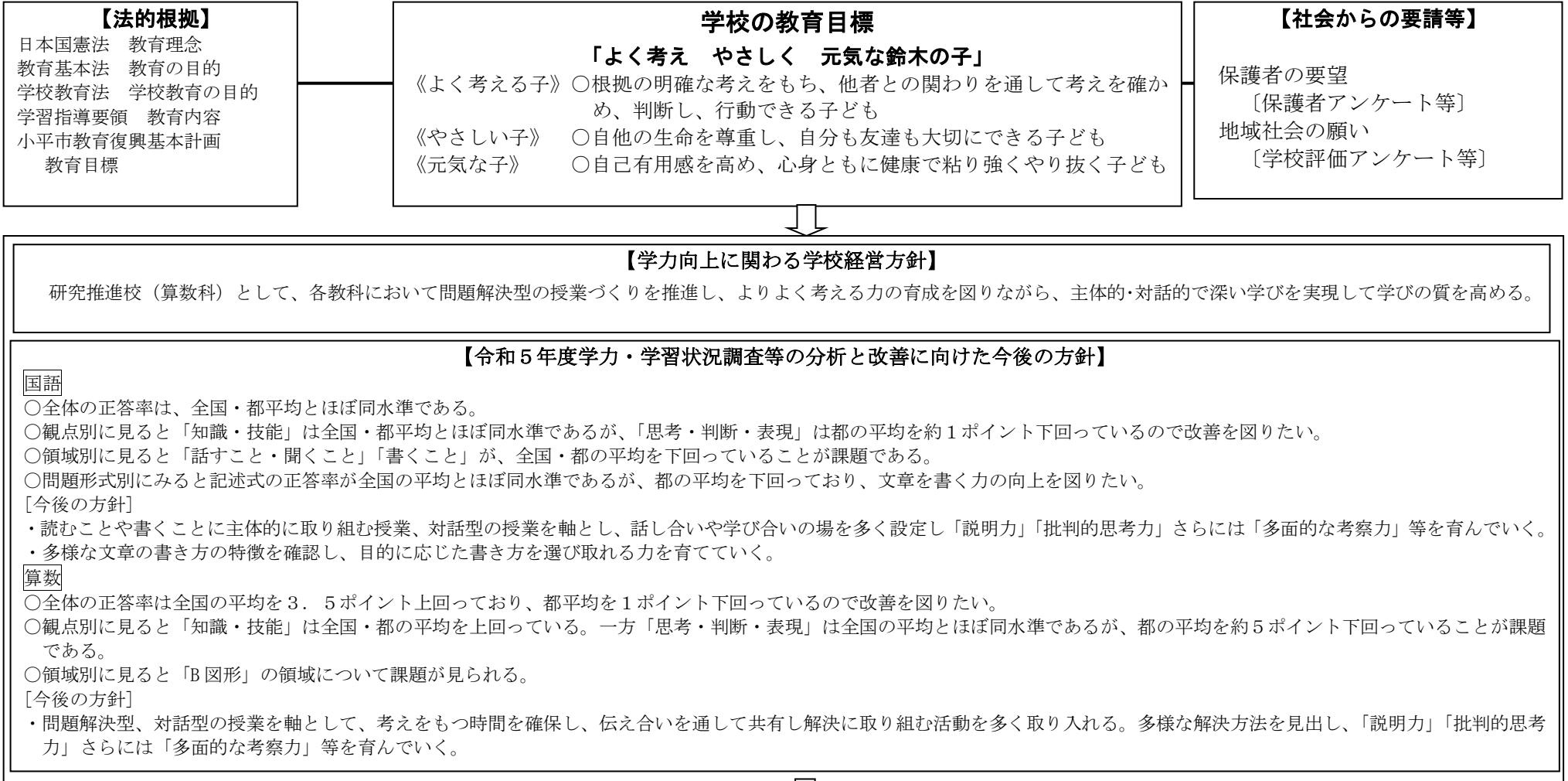


令和6年度 授業改善推進プラン全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫 教育環境の整備	校内における研究 研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携
○問題解決型の学習を行い、根拠を明確にして考えを伝え合う話し合い活動を通して主体的に考えを深め解決する力を育成する。 ○IT指導や習熟度別少人数指導、学習支援員の活用、ICT機器の活用など、児童の実態に応じた多様な学習形態を取り入れ、全ての児童がよく分かる授業の改善を推進する	○鈴木タイム（朝のモジュール学習）の回数を増やし言語の基礎学力を高める。 ○来年度に向け時程の工夫による授業時数の確保を計画する。 ○校内掲示計画を明確にし、校内研究・道徳・委員会・クラブ・たてわり活動等が全校で共有できる環境整備を進める。	○校内研究検証として算数科の研究授業を年間3回実践する。 ○研究夕会を毎週1回実施する。 ○授業改善にかかわるOJT研修を月1回実施する。 ○アンケートを実施し実態把握をする。	○PDCAサイクルによる指導と評価の一体化の考えのもと、指導のねらいの達成と学習内容の定着強化を図る。 ○評価規準（A規準、B規準）を明確にし、授業観察、ノート記述、振り返りカード等を活用して評価を行う。 ○学年やブロック・専科で評価内容の詳細を検討し、共通理解の上で評価する。	○家庭学習（学年×10分）の定着を図る。 ○地域教育コーディネーター等の人材を活用する。事前打ち合わせを実施し児童の興味・関心を高め、課題解決や探究活動の充実を図る。 ○東京都型学校運営協議会の中で、学力向上に資する取組についても検討する。